

与謝野晶子自筆『源氏物語礼讃』色紙（書写年未詳）

【翻刻】（／は改行を示す）

卷1 桐壺

紫のかゞやく花と／日の光思ひあは／では／あらし／とぞ／おもふ

卷16 関屋

逢坂はつきぬ清水も／恋人の熱き涙も／流るゝ／ところ

卷21 乙女

雁なくやつらを離れて／一つなく初恋をする／少年／の如

卷28 野分

けざやかに／うつくしき人／いますなり／野分が／あくる／絵巻の／おくに

卷53 手習

さめがた／か／ゆめの／半か／おぼつかな／法の／御山／に／ほど／近く／ゐぬ

卷54 夢の浮橋

ほたるだに／それと／思ひて／ながめつれ／君が車の／灯のすぎて／ゆく／晶子



今御野品子自筆『源氏物語札頭』色紙（書写年未詳）
 【副刺】（は政行を不す）

巻1 桐壺
 紫のかがやく花と/日の光思ひあは/では/あらじとぞ/おもふ

巻16 閑居
 寝殿はつさぬ清水も/恋人の熱き涙も/流るゝところ

巻21 乙女
 願なくもつらさを離れて/一つなく初恋をする/少年/の如

巻28 野分
 けさやかに/うつくしき人/いますなり/野分が/あくる/絵巻の/おくに

巻53 手習
 さめがた/か/ゆめの/平が/おぼつかぬ/法の/御山/に/ほど/近く/みぬ

巻54 夢の浮橋
 ほたるだに/それと/思ひて/ながめつれ/君が車の/灯のすぎて/ゆく/品子